

令和2年度 第4回門真市教育振興基本計画策定委員会議事録

開催日時 令和3年2月3日（水） 午後1時～午後2時

開催場所 市立文化会館 ホール

出席者 浦嶋敏之、野田文子、新谷龍太郎、上村梨恵、岩佐美奈子、寺西照之、八木明子、吉岡記博

事務局 久木元教育長、邊田副教育長、中野教育部次長、鈴木教育部総括参事、十河教育総務課長、向井学校教育課長、渡辺教育企画課長、植原学校教育課参事兼教育センター長、川谷学校教育課参事、湯川教育企画課長補佐、前馬教育企画課副参事、野澤係員

傍聴者 なし

議 事

○開催

事務局（前馬教育企画課副参事）

定刻となりましたので、第4回門真市教育振興基本計画策定委員会を開催いたします。本日はご多忙にも関わらず、また緊急事態宣言が発出されている中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

コロナウィルスの感染防止対策のため、マスクの着用や手指の消毒にご協力いただきましてありがとうございます。体調不良の方はおられないと思いますが、何かございましたらお声がけください。

また、換気も行っておりますので部屋が少し寒くなっておりますけれども、ご理解くださいますようよろしくお願いいたします。

本日は、委員9名中9名がご出席されており、門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則第5条2項の規定により、会議が成立していることをご報告申し上げます。

なお、後日議事録を作成するため、会議を録音させていただいております。ご発言に際しては、お手元のマイクのスイッチを入れていただきますようお願い申し上げます。

次に、お手元の資料の確認をしたいと思います。

1点目 会議次第

2点目 資料1 前回会議の振り返りと計画案の修正について

3点目 資料2 門真市教育振興基本計画（案）に対する意見募集結果について

加えて、本計画に関連する「門真市学力向上アクションプラン」をこの期間中に作成しましたので、机の上に置かせていただいております。本日はこちらの説明はいたしません。参考までにお時間のある時にご覧いただければと思います。

資料はすべてお揃いでしょうか。

それではお揃いのようなので、会議を進めさせていただきます。以降の進行は、浦嶋委員長にお願いしたいと思っております。委員長よろしくお願いたします。

浦嶋委員長

はい。皆さん、こんにちは。いよいよ最後の会議となります。どうぞよろしくお願いたします。

今回は、前回までに審議いただいた計画案をこの間事務局の方で取りまとめていただいて、パブリックコメントをしておりますので、その結果報告を受けまして最終的な答申にまとめていきたいと思っております。本日もどうぞよろしくお願いたします。

それでは、早速ですけれども案件1に入らせていただきたいと思います。いつものように今回の審議に入る前に前回の会議の振り返りということで資料をまとめていただいておられますので、事務局の方より説明をよろしくお願いたします。

案件1 前回会議の振り返りについて

事務局（湯川教育企画課長補佐）

それでは、案件1についてご説明をさせていただきます。お手元の資料1をご覧ください。

前回の第3回目の会議につきましては、第2回の会議でいただきましたご意見を反映しました修正案と新たに指標を追加しました計画案に対して、事務局より提案をさせていただきます。それに対する様々なご意見をいただいております。この資料には、前回いただいた主なご意見と、合わせてそれに対する事務局の対応を記載しております。

まず、2ページですが、計画全体に対するご意見としていくつかいただいております。1つ目が、「今後の方向性」と「主な取組」の整合が取れていない」ということで、「主な取組」には取組内容の具体的な記載があるけれども、今後の方向性には触れられてはいないところがいくつかある、とのご指摘をいただいておりますので、ご指摘いただいた箇所以外も含めて全体的に整合が取れるよう修正いたしました。

次に、2つ目が、「現状と課題」の内容が現状と合っていないところがある」ということで、一部現状の表現で、門真市の現状に合っていない記載となっているところがありましたので、内容を見直し修正をいたしました。

3つ目が、「第2章で門真の現状を示している「統計データ」のグラフに対して、説明している文章の内容が合っていない」ということで、この点に関しても全体的に内容を確認し、齟齬がない表現に修正をしております。

4つ目が、「指標の項目に全国学力テストの質問紙の子どもたちへのアンケート調査の項目を使用しているところがあるが、一部、今年度から質問紙の内容が変更されており、指標に採用している項目がなくなっているため修正したほうが良い」というご意見をいただきました。この点に関しても、指標を修正し、現状の全国学力テストで使って

いる項目や、門真市独自で調査している項目から、もともとの施策の趣旨に合う指標に変更させていただいております。

次に、3ページ以降に、それぞれの施策の方向ごとにいただいたご意見について記載しております。

《施策の方向1》では、主に「学力向上に向けた基盤づくり」に対してご意見をいただいております。

1つ目が、今後の運用として、「学校現場に学力テストの結果や分析内容を伝えていく際には、「国語だけ」や「算数だけ」など、その教科の分析結果だけではなく、学力テストの結果には様々な要素が関連しているので、横断的な、例えば算数や数学と国語の相関関係や、学力に影響している可能性のある生活背景や就学援助率などの内容も踏まえて伝えた方が良い」とのご意見をいただきました。

また、2つ目といたしまして、「指標の達成に向けて、学校現場や教育委員会だけではなく、地域、家庭がそれに向かって取り組んでいけるような仕掛けづくりや仕組みを作ることが課題である」というご意見や、3つ目として「学力向上に向けては、学校の授業だけに頼るのではなく、保護者も学力の状況を理解して学校と一緒に取り組んでいかなければいけない」というご意見をいただきました。

これらのご意見につきましては、計画を修正するという形ではなく、今後の計画推進にあたってのご意見とさせていただきたいと思っております。

続きまして、《施策の方向2》へのご意見として、「緊急時などの様々な状況下における学習機会の確保」の項目に設定していた指標の「オンライン授業を実施できる教職員数」の目標値が低く設定されているので、これは最終的に全教職員数を目標にするか、もしくは達成年度を早めるなどの指標の再検討が必要であるのご意見をいただきました。この指標に関しては、項目の再検討を行い、指標自体の変更をしております。

続きまして、4ページの《施策の方向3》へのご意見として、「キャリア教育指針」については、実践が課題なので、作成することよりも実践することに重点を置いた方が良く、というご意見をいただき、取組内容に実践についての記載を追加しております。

次に、いただいた意見の2つ目として、「キャリア教育を進めるにあたっては、子どもたちが頑張ってきたエピソードを蓄積して、色々な人が関わってその子のキャリアを考えるとときの引き出しを蓄えておくためのノートとしてキャリアパスポートを活用できるとよい。」とのご意見をいただきまして、こちらは今後の運用にあたってのご意見とさせていただきます。

続きまして、3つ目が、「読書活動や食育の推進に関しては、選任の教員である司書教諭や栄養教職員だけが推進するだけではなく、学校での教育活動全体を通して取り組んでいくという方向性が必要である。」というご意見をいただき、取組内容に学校としての取組の記載を追加しております。

4つ目ですが「自尊感情、自己肯定感、自己有用感の表記の仕方を検討されてはどうか」というご意見に関しまして、表記を検討し並列するように変更しております。

次に資料の5ページ《施策の方向5》に対するご意見として、「ハラスメントの相談窓口となっているが、設置はもう済んでいるので、今後の相談しやすい体制づくりや体制の充実といった観点の方が必要である」とのご意見をいただきました。この点につきましては、項目のタイトルと取組内容の部分を「設置」ではなくて「相談しやすい環境

づくり」という内容の記載に変更しております。

続きまして、《施策の方向6》に対するご意見として、「コミュニティ・スクールの推進の記載内容が学校内の組織運営に重点を置いた内容になっているので、コミュニティ・スクール自体の役割を記載した方がよい」とのご意見をいただき、役割の記載を追加する変更をしております。

また、コミュニティ・スクールについてはもう1つご意見がありまして、コミュニティ・スクールを進めていくに当たっては、地域だけ、学校だけではなく「地域と学校が連携しながら進めていく仕組みを考える必要がある」とのご意見をいただきました。こちらにつきましては、今後取り組んでいくにあたってのご意見とさせていただきます。

最後に6ページ、《施策の方向7》についてのご意見です。

1つ目が「チーム学校で関わっている関係機関は、本当に忙しく動き回っていただいている状況ではあるけれども、件数が多くて困っているときにタイミングが回ってこないという現状の中で、いざという時に頼れる体制を確保してほしい」というご意見がありました。この点も今後にあたってのご意見をさせていただきますと思います。

2つ目の「児童一人ひとりの課題に沿った支援」の部分につきまして、「課題のある家庭や子どもに対しては、地域の中で支えられているという感覚を持つことも大切なので、コミュニティソーシャルワーカーも含めた地域とのつながりの中で包括的に考えていかないという点から、門真市は若い先生も多いので、全体的にこの項目の取組内容の記載を門真市の現状を考えると充実させたほうが良い。」というご意見がありました。この点につきましては、コミュニティソーシャルワーカーの活用を検討することも含めて「地域との連携」に関する記載を追加し、全体的に取組内容を追加しております。

前回出された主なご意見は以上です。これらを含めまして、前回会議でのご意見を受けまして修正・反映した計画案を、パブリックコメントに提示する案とさせていただきます。パブリックコメントを実施しました。

なお、会議の途中でご意見をいただきました用語集等は今回も付けられていないですけれども、最終的には全体的な体裁を整えた上で用語集等の参考関係資料を末尾に付けまして製本をさせていただく予定にしております。

案件1についての説明は以上でございます。

浦嶋委員長

はい。ありがとうございました。

今、事務局の方から前回の会議及びその後に個別に出された意見も含めて、前回の振り返りということでもとめていただいた説明がありました。

今の説明について、何かご意見ありましたら遠慮なくお願いします。皆さん、どうでしょうか。

よろしいでしょうか。皆さん頷いていただいておりますね。毎回このようにまとめたいただくのは非常に会議運営上、スムーズに行くのでありがたいと思っています。

それでは、これについてはないようですので、案件2の方ですね。この間、パブリックコメントをされて意見が出てきたようですので、結果について事務局より説明をお願いします。

案件2 パブリックコメントの結果について

事務局（湯川教育企画課長補佐）

それでは、案件2についてご説明いたします。お手元の資料3をご覧ください。

前回会議でも、パブリックコメントの概要をお伝えしましたが、前回会議後に計画案を修正したのち、パブリックコメントを実施いたしました。期間は年末年始を挟みまして1か月程度実施しました。その結果、1件意見の提出がありました。

いただいた意見について裏面に載せておりますので、読み上げさせていただきます。裏面の左側の「意見の概要」が出された意見の内容になります。「1. 計画の柱建てについて」。「新型コロナウイルスの感染が拡大し、これから少なくとも数年間は従来の社会規範が大きく変容することが避けられない中で、教育としてもそうした状況への喫緊の対応が求められています。その観点からの計画の柱建てが弱いと考えます。たしかに、計画案ではオンライン学習などによる教育機会の保障、学校での感染予防策の徹底など、教育を行う側としての視点が各論的に触れられている箇所が散見されますが、ウィズ・コロナ社会ともいえる未知の大きな社会潮流に適切に対応していけるよう、児童・生徒が自ら考え判断し行動できるようになることを支援するという横断的観点が欠落しているように感じられます。国・府の基本計画を参酌するとしても、それらは新型コロナウイルスによる社会変容が始まる前に策定された計画であり、これから策定を行う門真市としては一歩踏み出した柱建てをするべきではないでしょうか。」というご意見をいただきました。

それに対する市の考え方につきましては、右側になります。「新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、社会全体においてこれまでの生活や行動を見直すなど、大きな転換期にある中、学校における教育のあり方も変革が求められており、今後は感染症との共存も前提とした教育活動を行っていく必要があります。

ご指摘いただいた、その社会の変容に対応するためにこれからの子どもたちに必要となる思考力や判断力等の総合的な力につきましては、新しい学習指導要領において今後育成すべき資質・能力として掲げられており、門真市としても、今後10年先、20年先を見据える中で最も大切にすべき観点であると考えております。

そのため、本市におきましても、計画p27に掲げる門真市が今後めざす子ども像を実現するための基本目標②において「これからの時代にたくましく生き抜く力を育む教育」を計画全体を通じた理念として掲げております。

また、具体の施策としても、その基本目標を達成するため、計画p30「施策の方向1（1）学習指導要領の確実な実施」をはじめとした教育活動全般を通して、総合的な生き抜く力の育成に向けて取り組んでまいりたいと考えております。」としております。

確かに、現時点では新型コロナウイルスが学校生活に及ぼす影響は大きくなっておりますが、今回の計画では今後コロナウイルスだけではなく、災害時など様々な状況を想定しての計画内容としておりますことと、ご指摘のあった「大きな社会潮流に適切に対応していくために、児童・生徒が自ら考え判断し行動できる力」というのは、まさに新学習指導要領にも予測不能な今後の時代において必要となる思考力・判断力などの資質・能力である、ということなどから、現状の計画で大切にすることは含まれていると認識しておりますので、このような考え方にまとめさせていただいております。

案件2についての説明は以上でございます。

浦嶋委員長

ありがとうございました。今のご説明に対して、何か意見、ご質問などございませんでしょうか。よろしいですか。

貴重な意見をいただいております。書かれていることはその通りなのですが、この委員会の中でも当初からコロナのことについては、現場からの声を聞きながら各施策の中に新しい時代を生きる子ども達という理念の部分について埋め込んできたという作業をしてきましたので、市の考え方としては妥当ではないかと私個人としては思います。それぞれ皆さん、意見がございましたら遠慮なく言っていただけたらいいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、特にないようでしたら案件3の答申の方に入らせていただきたいと思います。

寺西委員

その前に、少しだけ確認したいことがあります。

後で変えていただくことができると思いますが、資料2の26ページのはすはな中学校の建築年度が平成24年、経過年数8年というのは、満年齢で8年という意味でよろしいのでしょうか。

事務局（湯川教育企画課長補佐）

はい、そうですね。

寺西委員

間違えていたら当該校の校長として恥ずかしいので、また確認をお願いします。

事務局（渡辺教育企画課長）

この「学校施設の状況」というのは、会議の1回目の時の資料として作っている部分もありますので、実際に計画が出来上がった時点で改めて妥当な年数を再検討した上で出したいと思っております。

寺西委員

それと76ページの「めざす指標」「5年後の目標」というところなのですが、「新たな学校の設置を検討している校区」というのは「新たな学校のあり方を検討している校区」ということではないのですか。このまま「新たな学校の設置」とすると新たな学校を作るのかと思ってしまいます。ここの文章は「新たな学校のあり方について検討している」といった文章の方がいいのかなと。このままですと校舎を建てるのかなと思われそうです。表を見れば「単位」の中にそう書いてあるのでわかると思うのですが、直しておかないと勘違いする人がいるかなと。

そこだけ答申される前にお伝えしておきます。

事務局（湯川教育企画課長補佐）

はい、ありがとうございます。おっしゃっていただいた内容で修正させていただきたいと思います。

浦嶋委員長

今、寺西委員の方から計画案そのものについて気になる点を話していただきましたけども、このタイミングで他にもあれば出していただければと思います。細かい点であれば、個別に事務局の方にお話しされても結構ですし、大きな部分はだいたい皆さんの意見を吸い上げて整理をしていただいておりますので、ないとは思いますが。よろしいでしょうか。

それでは、細かいところも含めて何かお気づきの点がありましたら、個別に事務局に連絡をお願いします。

また、今の話の流れでいけば前半の現状の学級数の推移なんかも35人学級を受けて計算し直したりする作業が出てくると思いますので、そういったものも連動してもらうようよろしくお願いします。

それでは、案件3の答申に入らせていただきたいと思います。事務局の方で準備と説明をよろしく願いいたします。

<事務局> 各委員に答申書を配布

事務局（湯川教育企画課長補佐）

お手元に答申書が行き渡ってますでしょうか。答申について、事務局から説明をさせていただきます。

昨年8月に1回目を開催しました際に、教育長より策定委員会の方へ計画策定についての諮問をさせていただいておりました。この間の審議を踏まえまして、この諮問に対して答申をいただくことになっております。これまでの委員の皆様のご意見を受けまして、策定委員会委員長より答申をいただく形で、答申の内容をお諮りしたいと思いますのでよろしく願いいたします。

浦嶋委員長

はい。答申書ということで、中身そのものは資料2ですけども、答申ということでお示しをいただきました。短い文章ですけども、これについてご意見とか質問とかございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。それではないようでしたら、答申の準備ということでもよろしく願いいたします。

委員長・教育長 舞台前へ移動

事務局（湯川教育企画課長補佐）

それでは、準備が整いましたので、委員長より答申をお願いしたいと思いますが、答申いただいたのちに、教育長より最後にご挨拶をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

それでは、よろしくお願いたします。

浦嶋委員長

答申書、門真市教育委員会 教育長 久木元 秀平 様、門真市教育振興基本計画策定委員会 委員長 浦嶋 敏之、門真市教育振興基本計画について、令和2年8月7日付け門教企第65号にて門真市教育委員会教育長から諮問のありました門真市教育振興基本計画について、計画（案）を取りまとめ、ここに答申します。

よろしくお願いたします。

久木元教育長

ありがとうございました。

それでは、私から一言御礼のご挨拶を申し上げたいと思っております。

委員の先生方、皆様方におかれましては、昨年の8月以来4回に渡りまして、本当にお忙しい中、またこのコロナ禍という大変な時期でございましたけれども、お集まりいただきまして、本当にありがとうございました。様々なご意見、提言、そして慎重な審議をしていただきましたことに本当に感謝申し上げます。

今年度の私どもの大きなミッション、2つ計画がございまして、1つが学力向上のアクションプラン、そしてもう1つがこの教育振興基本計画の策定でございました。

アクションプランにつきましては、本日お手元にお配りしておるわけですが、市長の方から大命題ということで、3年後に全国学テで全国平均を目指せという命題を受けまして、それに向けての行動計画という形で、この計画に先立ちまして、今年度予算等の都合がございまして、先に作成させていただきました。このアクションプランの中で市長と議論になったのは、これまでの計画というものは、どちらかというで作っただけで、教育委員会だけの意識というか、要は学校現場とどれだけ共有化されて、その思いが現場の先生まで行き渡っているのかという課題がございました。そういった中でいかに実効性のあるものにするかということで議論したわけでございます。

この教育振興基本計画についても、そういった理由で私の拘りが2点ございました。

1つが作っただけで終わらないということにして、これは諮問時にも実効性の確保ということについて申し上げたかと思っておりますが、この計画も作るだけではなくて、学校の先生と一体となって今後どういった繋がりの中で、学校教育計画に繋がっていくか、そういう道筋が示せたのではないかと思います、非常に嬉しく思います。

もう1点が、この計画の中身についてでございますが、総合計画や基本計画といったものは作っただけで終わる、あるいは市町村の名前を変えたらどこの計画かわからないような計画ですとか、そういったものが多々あるのではないかと感じております。私も行政で経験があるのですけれども、そういった反省にたって、やはり門真独自の課題が盛り込まれているか、そしてそのための対策が盛り込まれているかということが大事な思っております、そういった部分では非常に上手くまとめていただいたなという思

いがしております。特に「めざす子ども像」の中で「社会の担い手として人とつながる力をはぐくむ教育」という「社会の担い手」という言葉が出てきたのは、私個人としても非常に嬉しく思っておりますし、あまり他市にもないものかなという思いがしております。

この時期、コロナもそうですけど GIGA スクール構想とか、これからのデジタル社会の中で本当に色んなことを問われております。我々といたしましては今後 10 年、20 年先を見据えながら、しっかりとこの計画に基づきながら教育委員会と学校現場が一体となって取り組んでまいりまして、門真の教育の向上のために邁進してまいりたいと考えております。

委員の皆様におかれましては、これまで以上に色々なところからアドバイスをいただければ嬉しいと思っております。本当にこの一年間、ありがとうございました。御礼を申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

浦嶋委員長

ありがとうございました。教育長から大変力強いお言葉をいただきました。今日が最後になります。短い期間でしたけども、本当に集中的に審議をしていただいたのではないかなと思っております。最後ですので委員の皆様からも一言ずつ言葉をいただければと思います。突然ですが、お願いできますでしょうか。

岩佐委員

短い期間でしたけれども、このような場で計画作成に携われたことで本当に勉強になりました。ありがとうございました。あとは、私たちが門真の学校教育を背負う立場にありますので、この計画に基づいて、教育長がおっしゃったように実行性のある取組をしっかりやってまいりたいと思っております。

寺西委員

本当に短い時間でしたが、私自身、色々な委員の方のご意見を聞けてとても勉強になりました。その中で、今コロナ禍の中でよく医療崩壊ということが言われているのですが、学校現場にとっては、私がいつも言い続けている支援教育であったり、不登校であったりといったことが、今は増え続けていて、何らかの根本的な体制・システムの見直しをしないまま、それらすべてに手を入れていくと、いわば個別対応による教育崩壊を招きかねない状態が懸念されること。この教育振興基本計画は5年という長いスパンですが、実際5年という期間は今の教育の流れの中では、それを上回るすごく早い速度で回っていること。そして、GIGA スクール構想もコロナのことがあったので、前倒しとなり、令和3年度4月を目指して、教育企画課においては本当に大変なご苦勞をさせていただいて学校への備品設置や準備等もかなり進んできております。やはり、今後この5年間というのをこのような正式な委員会でもなくとも、2年半や3年目でもう一度、学校現場や保護者の方から意見を吸い上げながら、修正する機会も持ちながら、例えば毎年されている教育委員会の点検評価であるとか、そういったところで振り返る時間をとっていただいて、先ほどの挨拶でも教育長が言われていたように、この先もずっと実行性のある計画にしておいていただけたらなと思います。

回数で言えば、数回でしたが充実した時間を過ごさせていただきました、ありがとうございました。

八木委員

私もこのような機会を与えていただいて本当に感謝しております。他の先生方同様、自分自身の学びに繋がったという風に強く感じております。これから、どういう社会が待っているのか、不安だなどこの会に参加しましてつくづく感じました。学校現場で子どもたちを見ておまして、この子どもたちが夢を持って、自分の人生を切り開いていけるような子ども、そのような力をつけていけるかな、またつけさせてあげないといけないなという責任を痛感したしだいです。この計画が実行されて、子どもたちが幸せになってもらえるような教育をしていけたらなと感じております。ありがとうございました。

吉岡委員

基本計画の策定委員会第1回が始まって以降でも、それまで考えもしなかったような事業とか新しいことが学校や教育委員会も含めて、教育現場に舞い込んできている、それについての対応についても目まぐるしかったなと思いました。それでも数回ではありますが、色々な方のお話を聞き、まとめていただいた答申案なども読ませていただきまして、これからも学校教育に携わる者としてどのようにしていけばいいかを深く考える機会になったと思います。あと、学校地域の方とはお話する機会はあるのですが、自分の勤務校以外の地域の方や市民の方のご意見を聞くことができたので、それは大変勉強になりました。ありがとうございました。

松田委員

大変勉強になりました。ありがとうございました。私もPTAをやりながら思うことは、自分も子ども時代がありました。40年くらい前ですが今の子どもと比べても、基本的に子どもは子どもで、何も変わらないと思います。今の時代と比べてみて、渡されているコンテンツが通信だったり、昔はファミコンくらいしかなかった。今はゲーム機も多様化していますし、スマホですとか、そういった新たな時代の流れになってはいますが、子どもは子どもで変わらないので、教育の現場というのは色々なものが入ってきて複雑にはなっていますが、子どもは子どもなので、PTAが色々やってもやはり現場なんですよね。私がやってきたこの5年間の中でも、現場の理屈もあると思いますが、しっかりと計画通りに進んでいくのがいいのかなと思います。

上村委員

会議に参加させていただきまして、基本計画について、皆さんとお話をさせていただいたのですが、行政が考えていくような、こういった基本計画にのっとって、学校とかも準じてやっていかれると思いますが、やはり私たちPTA、保護者としては、学校の先生に色々なことを託す。そして家庭でもしっかりと子どもたちを見ていく。そういったところが基本になってくるかと思います。教科書通りにはなかなかいかないのがこういう計画だと思います。学校も保護者もしっかりと意見を交換し合いながら、またPTA

としては学校に全面的に協力しながらやっていきたいなと思っております。

新谷委員

私も色々な自治体の基本計画を見ますが、正直、教育長がおっしゃったように中身が入ってこないんですね。ずっと関わらせていただいて、見ると言葉が心の中に入ってくるというのは、やはり色々な先生の意見が率直に交わせる場があったからだなと思うのと、限られた時間の中で討議するための準備をしていただいた事務局の方、私の勝手な意見を上手に仕切ってくくださった浦嶋委員長のご尽力があったからだと思っております。

個人的なことですが、先週、私の子どもの在籍している小学校で、先生でコロナの陽性者が出ました。その時に、会長をやっていますのですぐに校長先生から連絡が入りまして、こういった状況でこのように対応する予定ですということをおっしゃっていただいたので、保護者の方にも説明ができるのですが、そこで学校と教育委員会の方で少しタイムラグがあって、その後の見通しというか、計画がなかなか十分に保護者に伝わってなかったということが反省としてあるかなということがありました。

ですので、教育長もおっしゃっていたように計画というのは、あくまで何か困った時に立ち戻るところであって、保護者と学校とか、学校と教育委員会の方で何でも言い合えるような風通しの良い関係があれば、色々なことが実現して面白くなるのかなと思って楽しみにしています。貴重な機会をありがとうございました。

野田副委員長

どうもありがとうございました。この計画の作成に同席させていただきまして、学校の先生方も地域の方、保護者の方も真剣に意見を率直にお話しされていることに、ちょっと感動しながら、素晴らしいなと思いながら聞かせていただきました。やはりそれぞれの立場で率直に意見を言うという姿勢がなければ、実行性のある計画というのは組み上げていけない。そういった意見を真摯に汲み上げてこの計画の中に入れていただいていると感じております。どれも切り捨てられているものはない、全部一つずつ考えながら組み入れることができた計画になっています。運用面にまで踏み込んだ意見をいただいている、それも是非活かしていきたいというような説明を事務局からいただいておりますので、この計画の中に文言としては入ってなくてもそれは大事にして運用面で活かしていくんだというということですね。そういう決意をもってこの計画は出来上がっているんだなというふうに思いました。

この基本計画の中には一つ一つの言葉としては入っていないのですが、どの先生に会っても、どの教育委員会の方に会っても、保護者の方に会っても、子どもを大事にしたいんだということが溢れていました。いいことだなと思っています。是非、子どもを大事にできる教育現場、その現場の先生方を大事にする教育現場でもあってほしいなと思っています。先生方が元気である、そして子どもたちが元気であるというふうに繋がってくると思いますので、門真の良いところはそこだと思います。子どもを大事にして、そのために現場の先生も大事にする。そういう方向がまずベースにある計画であると私は感じております。ありがとうございました。

浦嶋委員長

委員の皆さん、ありがとうございました。本当に短い間でしたけども、委員の皆さんには集中的にそれぞれのお立場から経験を踏まえた意見をいただきました。短かった分、家で読み込んで個別に事務局に意見を伝えたり、この会の回数以上に時間を費やしていただいたのではないかなと思っております。ありがとうございました。

あと、それをですね、可能な限り中に入れるということで、非常にタイトなスケジュールでしたけども、事務局の方によくまとめていただいたかと思います。今、門真の教育の有り様について、何人かの委員から感想が出ていましたけども、実直に言葉だけにならないようにということで、色々な表現をしていただきました。時には私の方から、あまりにも本音を書きすぎでしょうと言いながら、修正をしていただいたこともありましたけども、そういったところから、やはり見かけよりも中身だという今回の策定に関わっていただいた事務局の方の本気度が伝わってきたと思います。

この計画は来年度から5年間ですよ。昨日、35人学級の閣議決定が決まりましたけども、その1年目、2年生から順次やっていって完成するのが、この門真のプランの完成年度と同じになるというタイミング。このラッキーなタイミングを上手く活かしていただいてきめ細やかな教育に向けて、門真市の一つの大きな基準になることを願っております。この計画の実行にあたっては、今日のまとめにもありましたけども、運用面や取組についても、皆さんから様々な意見が出されておりますので、是非、そのあたりをこれからも十分に考慮して、着実に実行していただければ有難いなと思っております。

その際は、今回も色々な部署に渡っておりますけども、行政の縦割りにならないように包含的に連携しながら取り組んでいただけたら有難いなと思います。

ありがとうございました。それでは、これをもちまして門真市教育振興基本計画策定委員会を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

《終了》